

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1173200948		
法人名	よしの佐久良有限会社		
事業所名	よしの佐久良 都幾川		
所在地	埼玉県比企郡ときがわ町田中380番1		
自己評価作成日	平成21年11月15日	評価結果市町村受理日	平成22年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1173200948&amp;SCD=320">http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1173200948&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市宮前町2-241		
訪問調査日	平成21年12月14日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者様個々の生活スタイルを大事にし、自分の家であると感じられるような環境整備を心掛けるとともに、職員全員が利用者様に対し、心と愛情を持って、「目配り」「気配り」「心配り」をするように努めていること。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

都幾川の清流と比企丘陵の美しく豊かな自然に囲まれた環境の中に、ゆったりとした作りのホームがある。各居室も壁紙やカーテンの色調・デザインを変えており、「ご自分の家」であると感じられるよう、個性が重視されている。「健康は人生最高の宝」という理念の通り、代表者は管理栄養士としての経験を生かし、食にこだわり、ふるさと埼玉の野菜と野草料理、郷土料理を食卓に提供し、利用者から大変喜ばれている。また、複合施設や医療施設もグループ事業の中にあり、トータルケアが望むことができる。職員研修もグループ全体で行われており、資格取得に向け、研修を行うなど、事業所として積極的に支援しており、スタッフも意欲的である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「健康は人生最高の宝」「ご自分の家」「心と愛情」という基本理念を元に、利用者様個々の生活スタイルを大事にし、生活環境の整備を心がけ、充実した生活が送れるよう全職員が支援している。	新任研修や年度初めには代表者から理念についての講話がある。「健康は人生最高の宝」とし、旬な食材にこだわり、食を通して健康の維持を実践している。また日々の利用者の生活支援について職員間で話し合い、確認を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、地元の小中学校から事業所へ、運動会への利用者様参加の案内通知や中学生の職場体験の申し込みがある。9/19 玉川小学校の運動会に、利用者様6名参加する。	毎日同じ時間帯に散歩へ出かけている。近所の方から花を頂くこともあり、居室や食卓に飾っている。毎年地元小学校の運動会へ参加している。また中学生の職場体験では交流を楽しみにしているが、今年はインフルエンザの影響で実施されていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	内外の研修等により、認知症に対する理解度は高まっており、施設内の現場では大いに役立っているが、外部に対してはあまり活かされていない現状である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	幅広い人材からより多くの情報や意見を得るため、11月の運営推進会議より、推進委員を1名増員し、これで計6名となる。	5月、11月の年2回実施。会議は民生委員、区長、議員等の推進委員と施設職員で構成され、地域の情報交換や防災対策等の話し合いが中心である。運営について具体的な話し合いはされていない。利用者や家族は入居期間が短いことから参加の呼びかけを行っていない。今後は2ヶ月に1回開催するよう、内容を検討している。	今後の運営推進会議において、事業所の様子や取り組み、地域住民との関わりなど、具体的な話し合いが出来るよう、期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に事務手続き等の連絡や相談だけとなっている。	事業所単体としては、必要時のみの連携となっているが、法人として地域会議の出席やヘルパー養成講座の講師派遣など、密接な連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にて、定期的に勉強しており、身体拘束ゼロを実践している。また、玄関の施錠については、施設が車道に隣接した立地条件のため、利用者様の安全性を優先し、通常は施錠している。	入居時に家族との話し合いが持たれ、身体拘束ゼロを実践している。立地的に交通量の多い道路に面しているため、安全面より、玄関の施錠をしている。庭の植木の水やりなどは都度、施錠の解除を行っており、特に問題は生じていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて、定期的に勉強しており、高齢者虐待ゼロを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	紹介ができるように、窓口にパンフレットを置いてある。ただ、内部研修等での勉強会は、このところ実施されていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時に十分な説明を行い、利用者様や家族様に理解・納得をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の受付窓口に「苦情意見箱」を設置している。また、相談窓口及び苦情解決の担当者、責任者を配置している。	「苦情意見箱」を設置しているが、苦情等は特にない。月に1度、利用料の支払い時に家族と面談を行い、相談や要望について直接管理者と担当者が応じている。また、利用者の要望等は職員を通じ、管理者へ伝え、職員会議で検討されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な個人面談や全体会議(よし乃郷グループ及び事業所単位)において、職員との話し合いの場を設けている。	年1回の定期的な面談や、希望があれば代表者との面談も可能である。職員の定着率もよく、会議において職員間で活発に意見交換ができる体制があり、お互いが理解し合える関係を築いている。職員からの聞き取り時にもその状況が確認できた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に業界の職場環境や待遇等と弊社のそれとの比較も行われており、より良くなるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外を問わず、研修に参加できる機会が設けられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	よし乃郷グループ内での、病院や特養老人ホーム等との訪問や交流は盛んだが、外部の同業者との交流は少ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個別対応により、常に同じ目線で、ご本人との話をする機会を多く持つことにより、信頼関係を築くことを第一と考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所・電話・訪問等、状況に応じて誠意も持って話を聞くことにより、信頼関係を築くことを第一と考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスが必要と依頼してきたご本人とご家族の現状把握を心がけ、主訴に合った支援を第一に手がけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に同じ目線での対応を基本とし、寄り添うことにより、お互いの関係を築くことを心掛ける。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族との間において、常に中立的立場を維持し、ご家族をその都度話し合いながら、ご本人をより良い形で支援できるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話での交流の支援を行っている。また、クリスチャンのご利用者があるが、月に一度の教会での礼拝参加にも協力している。	利用者の共通の知人など、家族以外の面会者も多い。また、家族との外出や外食などの支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を常に観察することを心掛け、試行錯誤ではあるが、ホールの座席の変更や集団レク等での交流を試みて、より良い関係になるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に、ご家族やご本人が希望される場合は、相談や支援をするよう心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	信頼されずして、本意は把握できないとの考えから、ご本人との接する時間を多く持ち、誠意を持って対応することを心掛ける。	花を植えたい、ゆっくり絵をかく時間を設けたいなど、一人ひとりの要望に極力応じるよう、配慮している。困難な場合は出来るだけ職員が接する時間を増やしたり、家族からの情報で本人の意向や意思確認の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に、ご本人やご家族から生活歴等を伺うが、入所後もご本人等との対話等で知り得た情報は、随時、会議や申し送り等で全職員が共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、1日の仕事の中で、何かしら18名の利用者様全員と係れるよう心掛けており、その日の利用者様の状態の良悪を察知できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時や介護度変更時等にケースカンファレンスを行い、CMを中心に、介護・看護、またご本人やご家族にもご意見を頂き、より良い介護計画の作成・実行に努めている。	年2回モニタリングを実施。家族の面会時に意向を確認し、毎月の会議やケースカンファレンスにて具体的な話し合いが活発に行われており、介護計画に反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の様子は、個々にその都度ケース記録に記入され、職員間の情報の共有のため、申し送りや介護計画の見直しに使用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時間(8:30~17:30)を規定しているが、ご家族の都合も考慮し柔軟に対応している。基本的に家族対応の通院等も、場合によっては弊社職員対応で、規定の送迎料金により対処する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月取り寄せている町の広報誌は、俳句等の募集欄があり、利用者様の楽しみの一つとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人が利用していたかかりつけ医に定期的に受診されているケースも数名いる。特に歯科や眼科が多い。内科は基本的に協力医療機関にて、週1回の往診等、一体的に健康管理の連携をとっている。	かかりつけ医の受診の際は、原則家族対応となっているが、職員の協力、支援体制を整えている。受診報告を必ずいただき、連携を取っている。内科の往診は週1回行われており、いつでも相談できる体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職も介護職を兼務しているため、双方の情報伝達はスムーズであり、適切な処置が受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院関係者や医師等と、どの程度の入院なのか、どんな治療をするのか等、利用者様が安心してできるように相談や情報交換をするよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の利用者が、心地よく、また、より良く暮らせるように、内部研修会等で勉強会を行っている。また、運営者や医師、職員等によって、今後の変化への対応についても、準備や検討を行っている。	入居時の早い段階で家族との話し合いが持たれ、状況に合わせ病院や特養など、他のサービスの選択の援助を行っている。近隣のグループ内病院や特養の入院・入所を希望される方が多く、ターミナルケアは事業所内では行われていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修会やマニュアルの作成・活用により対応の仕方を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を地元消防署の指導の下、実施している。また、災害時に備え、食料等の備蓄も行うとともに、地域の運営推進委員等に協力をお願いしている。	非常口を開放し、利用者を中心に避難訓練を実施している。運営推進委員等に協力をお願いしているが、地域との訓練はされていない。緊急避難場所としてグループ内の複合施設がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症等の勉強会や事業所の全体会議等でも、徹底事項として議題に取り上げている。	「心と愛情」の理念を心がけているが、親しみの会話の中で瞬間的に出てしまう不適切な言葉使いなどは管理者が都度注意をしている。また、会議等に具体的に取り上げ、誇りやプライバシー確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	月に2回(第1・第4木曜)、喫茶タイムを設け、利用者様にお好きな飲み物を選んで飲んでいただいている。また、月に1度のおやつレクにて、おやつを思いのままに、自ら作って頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴やレクリエーション等、ご本人の希望を考慮し、入浴日や時間帯を変更したり、全体レクを休んで自室で趣味の絵画を完成させるのを優先させてあげたりという支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望により、おしゃれ小物等が欲しい場合は、ご家族に相談したりして、可能な限りかなえられるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の口の体操や下膳等も安全性に気をつけながら手伝って頂いている。	代表者は食にこだわり、旬の野菜や魚を中心に食事提供をしている。焼き魚・煮魚などの好みや味付けも一人ひとり対応をしている。食事は利用者にとって大きな楽しみの時間になっている。おやつレクとして「お好み焼き」なども行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記入により、1日の食事量、栄養バランス、水分量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア後、入れ歯の利用者は、夜間、ポリデントにて殺菌洗浄して口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。また、排泄係を中心として、入所時におむつ使用の方も、トイレ誘導に移行できないかどうかの検討も行っている。	排泄係を中心に一人ひとりの排泄アセスメントがしっかりできている。本人や家族の理解を得、トイレでの排泄ケアに事業所全体で取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	極力、薬に頼らず自然な排便ができるよう取り組んでいる。毎朝、ヨーグルトをメニューに入れ、副食も野菜を多く取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は、原則週2回だが、ご本人の都合等により、曜日や時間帯の変更には柔軟的に対応している。	個々の希望に合わせ、入浴時間の配慮がなされている。入浴拒否の方に対しても、親しい利用者に声をかけていただき、気持ちよく入浴ができるよう工夫をしながら援助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室には、ベッド周りにお好きなぬいぐるみを飾ったり、長年ご愛用の枕を使用したりして、なるべくリラックスした雰囲気が出せるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に、薬情ファイルをもとに、処方薬の理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の能力に合わせ、ご本人の希望を第一として、洗濯物たたみや植木いじり、また、居室で絵画を楽しむ等、ご本人の生きがい作りを大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には、11時からの職員との散歩がある。また、面会時に外出して、ご家族と食事を楽しんだり、ご家族と教会に礼拝に行ったりすることにも協力している。	利用者の希望や身体状況に合わせ、散歩コースを2～3用意し、対応している。お花見や菖蒲園へのドライブや家族との外出を支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ご利用者18名中、6名がお金を所持している。安全性の面から、ご家族の了解のもと、数万円を上限の目安としている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、ホールの電話をお貸ししたり、郵便物の投函の手助けをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員には、共用空間では、大声を出したり、走ったりすることを極力避けるよう徹底している。また、テーブル等に季節の花木を飾るよう心掛けている。	共有スペースに畳があり、憩いの場として活用されている。季節の良い時はサンルームで過ごすことが出来、季節感を味わうことが出来る。	広くゆったりとした共有スペースが有り、これを有効に生かし「入居者にとって本当に居心地のよい空間とは何か」を話し合い、より快適な空間づくりに向け、検討することが望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時以外は、特に居場所を固定せず、今どこにいるのかを確認しながら、安全性に注意して見守りしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が慣れ親しんだ家具等を設置し、自分の家と感じられるような配慮を、ご本人やご家族とも相談しながら工夫している。	「ご自分の家」の理念があるように個々の居室はそれぞれ使い慣れた家具や仏壇、カラオケなどが持ち込まれ、居心地の良い空間になっている。リスクがない物であれば特に持ち込み物の制限は設けていない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ごとに、壁紙やカーテンの色柄を変えてあり、自分の部屋とご本人が認識出来るよう工夫している。		